

# 2020年度 学校自己評価システムシート ( 秀明大学学校教師学部附属秀明八千代高等学校 )

目指す学校像	常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする
--------	------------------------------------

重点目標	1 自主学習習慣を身に付け、生涯にわたって真理を追究する力を育成する。 2 集団や社会の中で互いの個性を尊重し、健全に生活する力を伸ばす。 3 家庭と連携し、持続可能なより良い社会の創生を目指して自己実現を図る志を養う。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 (3月31日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>誓いの言葉、自学自習の記録により、目標を立てて具体的に努力を積み重ねる指導を行っているが、目標の明確化や学習意欲に課題があり、自主学習習慣に個人差がある。</li> <li>思考力・判断力・表現力を育成するためにスキルコードを開発し、指導と評価を一体的に改善しているが、指導・評価両面において改善途上にある。</li> </ul>	自主学習習慣の確立と学力の向上  授業の改善と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍であるため「自学自習の記録」の代わりにClassiの「学習記録」を用いて生徒の現状を的確に把握する。</li> <li>総合的な探究の時間のまとめとして校外の発表機会を活用する。</li> <li>授業・定期考査においてスキルコードを活用し、「知る喜び」を実感させる学習指導を行う。</li> <li>研修授業でスキルコードを活用し、教科で事後検討会を行って、授業改善を行う。</li> </ul>	①Classi「学習記録」による自主学習習慣の状況 ②総合的な探究の時間の学習状況  ③授業・定期考査におけるスキルコードの活用状況 ④研修授業の実施結果、検討会の状況 ⑤授業アンケートの改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習記録」は担任が毎日確認し、「生徒へのメッセージ」欄にはコメントを記入した。</li> <li>4日間のSDGsWeekで探究活動に集中して取り組み、活動内容をまとめてSDGs探究AWARDS2020にエントリーした。</li> <li>定期考査の全ての教科の問題にスキルコードを記入し、出題の狙いを生徒に周知できた。</li> <li>研修授業の指導案にはスキルコードを用いたロードマップを明記し、生徒を主体的に対話的で深い学びへ導く過程を可視化した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>自学自習の記録をアプリケーションにしてオンラインで担任が生徒にコメントできる体制をつくる。</li> <li>SDGs探究AWARDS2020に全ての生徒をエントリーさせることができなかった。</li> <li>大学入試の出題傾向の分析にもスキルコードを活用する。</li> <li>研修授業に限らず普通の授業の指導案でもスキルコードを用いたロードマップを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が記入した学習の記録に対して、教員からの返事等がよい。</li> <li>「総合的な探究の時間」では、コロナ禍で学習計画通りに授業が進まない中、生徒達が主体的に課題に取り組み、情報の収集や整理・分析をして結果をまとめた。</li> <li>定期考査の合間に検定テストが実施されるので、学習する習慣がしっかりと身につく。</li> <li>学校のテストと英検が重なるときがあり、そのようなスケジュールだと負担が大きいように感じる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>心の学習を中心に、基本的な生活習慣を確立し、自他を尊重し、学校生活をより良くする指導を行っているが、人間関係能力の向上に課題がある。</li> <li>社会性を高めるために5つの約束を遵守する指導を行っているが、インターネット等の影響により規範意識に課題がある。</li> <li>父母から授かったかけがえない命・身体を互いに大切にする指導を行っているが自己管理意識や自己肯定感の低さ等に課題がある。</li> </ul>	心の学習  5つの約束  健全な生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞記事を事例に、正しい判断力や思考力を身につけさせる。</li> <li>頭髪・身だしなみの指導は、学年ごとに指導するとともに、全教員が一体になって行う。</li> <li>「善いことと悪いこと」「許せることと許せないこと」の区別をきちんと理解させる。</li> <li>生活アンケートや面談の実施によりいじめの防止に努める。</li> <li>定期考査の振り返りにより成果と課題を明確にし、日々の生活に目標を持って取り組む。</li> </ul>	⑥新聞記事の活用状況 ⑦頭髪検査の合格状況 ⑧生徒の人間関係の状況  ⑨「心の学習」の題材に対して生徒が作成した文章の内容  ⑩生活アンケート、面談の実施状況 ⑪Classi「学習記録」および「学期を振り返って」の記載内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生が知っておくべき時事問題は、新聞記事を教員が毎日選んで教室に掲示した。</li> <li>頭髪検査は担当教員がHRクラスを回って実施、身嗜み指導は毎朝の登校時に行った。</li> <li>総合的な探究の時間ではグループ活動で協働することができた。</li> <li>放送による学校長の訓話の内容について、様々な経験を踏まえ、自らの意見をまとめることができた。</li> <li>生活アンケートは月に1回以上実施、感染症対策に十分配慮して生徒面談も行い、Classiを併用して生徒の状況を把握した。</li> <li>学期毎の文章による振り返りで、生徒に現状の把握と動機付けを行うことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞記事を元にした意見発表、討論まで指導のレベルを引き上げる。</li> <li>多様性、包括性の立場からいじめ撲滅の目標を達成する。</li> <li>「心の学習」を通じて豊かな人間性を養うとともに、文章作成能力を高める。</li> <li>2週に1回以上の面談、月1回以上の生活アンケートを継続する。</li> <li>コロナ禍でも可能な犯罪被害防止のための取り組みを行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話でニュースを読む子供達に対して、新聞記事の活用は刺激を与えるよい機会であった。新聞を教材としたことで、家庭でも親子で話し合う時間が増えた。</li> <li>「心の学習」について家庭に帰ったときに子供が自分の考えたことを親に話してくれることもあり、時事問題について親子で意見交換するとてもいい機会となった。SNSに振り回される世の中になってしまったので、新聞を活用することはとてもよいことである。</li> <li>日頃の身嗜み検査は、自分の服装や頭髪を振り返るよい機会になっている。</li> <li>子供が、担任の個別面談で学習面・生活面での成長や改善点について教えてもらい、とても参考になったと言っている。</li> <li>秀明の学習で信頼している点が「自学自習の記録」である。コロナ禍ではClassiで学習の記録、振り返りができてよかった。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と連携し、保護者の立場になり有為な社会人としての資質を育成しているが、コロナ禍で保護者会を十分に実施できていない。</li> <li>志望する進路を実現させる指導を行っているが、3年間を見通した系統的な指導及び大学合格実績に課題がある。</li> <li>社会貢献の志を高める指導を行っているが、経済優先の風潮の中で、持続可能性を意識した公德心が育っていない。</li> </ul>	家庭との「共育」「協育」  志望進路の実現  持続可能な社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者会・三者面談は感染症拡大防止の観点からオンラインを活用することで、学習面や生活面の話し合いの機会を安全に設ける。</li> <li>a-PGTを核にした系統的なキャリアガイダンスを実施する。</li> <li>難関大学の総合型選抜・学校推薦型選抜に活用できるポートフォリオの蓄積を指導する。</li> <li>全ての学習をSDGsの視点で捉え、地球社会への貢献を意識して活動させる。</li> <li>ユネスコスクール登録に向けて実践を積み重ねる。</li> </ul>	⑫保護者会、個別面談の状況  ⑬進路希望状況、進路実績 ⑭学びの記録、学校行事の振り返りなどのポートフォリオ  ⑮SDGsの学習活動記録 ⑯ユネスコスクール登録に向けた準備の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインで保護者会を2回(6,9月)、三者面談は対面・オンラインの選択式で2回(7,3月)実施し、多数の参加があった。</li> <li>希望する進路が決定するように努め、上級学校への進学率は90%、内4年制大学への進学率は63%であった。</li> <li>総合的な探究の時間を含め、全ての学びの記録を1つのファイルにまとめることができた。</li> <li>校外学習ではSDGsの考え方にに基づき、事前・事後の学習を充実させた。</li> <li>ユネスコスクール登録に必要な授業実施結果等の提出物を全て揃えることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインを有効に活用し、保護者会には今年度以上の参加を呼びかけ、学校と家庭の「共育」、「協育」を促進する。</li> <li>大学入試における面接・小論文・プレゼンテーション指導を組織的かつ計画的に行う。</li> <li>学習記録の蓄積だけでなく、その活用を促していく。</li> <li>SDGsの達成に向けて生徒一人ひとりが行動できるよう担任は教科横断的に生徒を指導し、その記録を蓄積する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスへの感染リスクに備えるため、YouTubeやオンラインを用いて保護者会を行ったことはよい。</li> <li>感染対策を十分に講じた上で、対面での個別面談が選べたのはありがたかった。</li> <li>進路指導については、高校1年の頃から生徒の考え、親の希望に向き合ってもらえた。</li> <li>SDGsについては、まず理念を理解し、次に自分たちで一から考え、企画を組み立て、プレゼンテーションをするという系統だったよい学習ができた。</li> </ul>